

2024 年度（第 15 期）事業報告

自 2024（令和 6）年 4 月 1 日
至 2025（令和 7）年 3 月 31 日

目 次

1. 株式会社の現況に関する事項	
（1）事業の経過及びその成果	1
（2）取り組んだ主な事業	1
（3）対処すべき課題と今後の方向性	4
（4）資金調達等の状況	4
（5）設備投資の状況	4
（6）主要な事業内容	5
（7）主要な営業所	5
（8）使用人の状況	5
2. 株式に関する事項	5
3. 役員に関する事項	5

札幌駅前通まちづくり株式会社

1 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度におけるわが国の経済は、エネルギーや原材料価格の高騰に加え、円安の進行が重なったことで物価の上昇が続きましたが、企業収益は高水準で推移し、雇用・所得情勢にも改善が見られたことから、緩やかな回復が続きました。道内経済においても、堅調なインバウンド需要や設備投資に改善の兆しが見られるなど、全体としては緩やかに持ち直している状況にありますが、人口減少や労働力不足のほか、北海道新幹線延伸延期に伴うまちづくりへの影響といった課題にも直面しています。

このような中、当社は札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）や札幌市北3条広場（アカプラ）の指定管理業務、チ・カ・ホの壁面を活用した広告事業、地域コミュニティづくりなどのエリアマネジメント活動を積極的に進めてまいりました。

チ・カ・ホにおいては、前期に引き続き順調な広場利用に支えられ、主要貸出場所の年間稼働率は約88%となりました。

アカプラにおいても、春から秋にかけての利用が好調で、利用料収入は前年比133.4%と大きく伸長しました。

また、壁面広告事業においては、広告媒体として高い評価をいただいた結果、1週間単位で出稿できる短期広告枠の年間の稼働率は90.1%（対前年度比100.8%）となり、3か月単位の長期広告枠の稼働率は、前期に引き続き100%で推移しました。

その結果、今期の事業収益は、売上高が321,739千円（対前期比106.0%）、営業利益は36,428千円（対前年比109.8%）、経常利益は41,950千円（対前期比111.0%）、当期純利益は28,644千円（対前期比118.4%）となりました。

(2) 取り組んだ主な事業

① 関係各所との連携によるまちづくりの取組

a. 賑わいの創出

当地区の賑わい創出や活性化などを目的に、沿道企業や地域関係者、行政等で構成されたまちづくり実行組織の「札幌駅前通地区活性化委員会」と連携してイベントを実施するなど、地域価値の向上に努めました。

（サッポロフラワーカーペット 2024、サツエキテラス、さっぽろ八月祭 2024、SAPPORO PERFORMANCE PARTY 2024、アカプライルミネーション 2024-2025、サツエキイルミネーション 2024-2025、Sapporo Parallel Museum 2025 など）

また、地域のコミュニティ組織として活動している「札幌駅前通振興会」と協働で、「冬のまち歩きを楽しく」をコンセプトに、装飾したツリーを札幌駅前通沿道のビルや店舗の軒先などに飾り、クリスマスや季節の雰囲気を広げておもてなしをする「Happy Tree Street 2024」を展開しました。

b. 環境美化

札幌駅前通振興会や町内会・近隣企業等と連携し、駅前通周辺の清掃活動「ツキイチ・クリーン」を実施したほか、歩道へのプランター設置などを行いました。

c. 安心安全なまちづくり

チ・カ・ホと接続するビルや行政等で構成される札幌駅前通地区防災協議会の事務局として、チ・カ・ホの防災センターと接続ビルを結ぶ防災情報伝達システム（インターホン）の定期訓練を毎月行ったほか、講師を招いて会員向けに防災研修会を実施しました。

また、札幌中心部の公的な施設における、いわゆる「ホームレス」の方々の滞在状況等について施設管理者及び支援団体間で情報共有を行い、その後の支援につなげるため設立した「札幌中心部ホームレス対策施設連絡会」の事務局として、チ・カ・ホを含む各施設と支援団体との連絡・調整業務を行いました。

② 指定管理施設「チ・カ・ホ」「アカプラ」を活用した取組

a. 広場利用者の新規開拓、利用促進

情報提供機能の充実（ホームページでのイベント情報の掲出）、利用を検討されているお客様向けの簡易版パンフレットの新規作成、オンライン利用説明会などを行いました。

b. 利用しやすいルールの方策や新しい貸出備品の検討（チ・カ・ホ）

利用規約の改定、貸出備品（ワゴン）改修の検討などを行いました。

c. 周囲の景観と調和するレイアウトやデザインの調整（アカプラ）

利用者とともに、利用の手引きやチェックシート等による確認を行いました。

d. 広場運営協議会の開催

地域の関係者や札幌市からなる運営協議会を年4回開催し、利用者へのサービス向上や管理運営水準の維持向上に向けた取組について意見交換を行いました。

e. 広場を活用した賑わい創出事業（自主事業）の実施

【チ・カ・ホ】

kurache（クラシェ）、チ・カ・ホLIVE、チ・カ・ホのお正月、案内所の設置（ビッグイシューさっぽろとの連携）、接続空間を活用した休憩スペースの展開、Sapporo City Wi-Fiの運用、イベントインフォメーションボードの設置 など

【アカブラ】

アカブラテイクアウト～みんなのテラス席プロジェクト～、サッポロフラワーカーペット 2024、さっぽろ八月祭 2024、アカプラス、アカプライルミネーション 2024-2025 など

③ エリアマネジメントを促進させる取組

a. チ・カ・ホの壁面広告事業の推進による良好な景観形成と財源の確保

広告稼働率：短期枠（1週間単位）… 実績 90.1%（目標 80%）

長期枠（3か月単位）… 実績 100%（目標 100%）

b. 札幌駅前通協議会との連携による「札幌駅前通地区まちづくりビジョン」「まちづくりガイドライン」等の運用

当地区で行われる開発が、まちの将来像の実現に資するものとなるよう、札幌駅前通協議会に設置された開発検討委員会において、関係者との事前協議等を行いました。

c. 官民連携まちなか再生推進事業の取組

今後のオープンスペースの利活用の担い手となる地域のプレイヤーの発掘・育成を行う実践講座「ストリートデザインスクール@札幌」を開講しました。

d. 全国エリアマネジメントネットワークとの連携

全国各地でエリアマネジメント活動を実践している団体が連携してその取組を推進するために共同で設立した「全国エリアマネジメントネットワーク」の幹事社（副会長）として、シンポジウム、視察研修会への参加や各地の先進事例の共有を行うなど、当地区の地域価値向上のための諸活動を推進しました。

e. 将来を見据えた指定管理以外の事業の実施

当地区に隣接し、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）の南側に位置する「道庁南エリア」で実施した道路空間と民有地を活用する社会実験において、当社がその企画運營業務を受託し、当社が有する公共的空間の活用ノウハウを実践して賑わいの創出に向けた取組を実施しました。

④ 地域資源を活用した文化の発信等の取組

関係各所と協力して、全市的な季節のイベント等を実施しました。

（さっぽろ菊まつり、さっぽろアートステージ、さっぽろホワイトイルミネーションなど）

⑤ 人材育成や地域コミュニティ創出の取組

a. 文化芸術活動やまちづくり活動を担う人材育成と交流拠点の形成

アートマネジメント／まちづくりをゼロから学べる入門講座「Think School (シンクスクール)」を開校し、「企画コース」「制作コース」合わせて19名が受講しました。また、赤れんが テラス 5F の眺望ギャラリー「テラス計画」を、眺望のみならず、人々が自由に交流することで、新しい芸術文化やアイデア、イノベーションを促す場として活用を行いました。

b. 地域コミュニティ活動の実施

当地区がビジネスパーソンにとって働きやすく、健康的であることを目指すエリアヘルスマネジメントの取組「人体改造カブ株式会社」や、働きながらどう子育てをしていくのかを研究する「まちのこそだて研究所 gurumi」にも取り組みました。

(3) 対処すべき課題と今後の方向性

今後の道内経済は、更なる物価高騰や人口減少に伴う労働力不足などが見込まれ、再開発の遅れや見直しなども、まちづくりに影響を与えることが予想されます。

指定管理施設の活用を図りつつ、エリアマネジメント広告事業の収益等をまちづくりに還元する当社の事業も、不確実な経営環境の中での取組となることから、ステークホルダーの皆様とともに、エリア一体となった取組がより一層求められます。

指定管理事業・広告事業ともに稼働率の向上に取り組むのはもちろんのこと、これまで未活用だった公共的空間の利用を促進し収益に繋げる検討を進めてまいります。

また、地域のレジリエンスを高めるため、地域の皆様と連携した防災・環境美化等の取組を進めるほか、策定後5年が経過した地区まちづくりビジョンの見直しに着手するなど、エリアブランディングの強化を進めてまいります。

さらに、地域コミュニティの創出やまちづくりの担い手となる人材の育成にも引き続き取り組んでまいります。

これらの経営課題に対応するため、人材基盤の強化を進めるとともに、収益の多角化の検討と安定的かつ効率的な資産活用による財務基盤も強化し、経営基盤の強靱化を図ってまいります。

(4) 資金調達等の状況

該当事項はありません。

(5) 設備投資の状況

当期は、業務に使用するサーバーやアカプラの防犯カメラシステムの更新等に、3,058千円の設備投資を行いました。

(6) 主要な事業内容

- ・札幌駅前通地区でのまちづくり活動及び札幌都心部他地区におけるまちづくり活動との連携調整に関する業務
- ・札幌駅前通地下歩行空間（地下広場）及び札幌市北3条広場の管理運営の受託に関する業務
- ・地域の活性化を図るための事業企画、立案、コンサルティング及びその受託に関する業務

(7) 主要な営業所

本社 札幌市中央区北3条西3丁目1番地 札幌駅前藤井ビル8F

(8) 使用人の状況

2025年3月31日 現在

使用人	平均年齢	平均勤続年数
11人	42.8歳	9年4か月

※上記は正社員のみ

2 株式に関する事項

- | | |
|----------------|--------|
| (1) 発行可能株式数 | 1,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 198株 |
| (3) 当事業年度末の株主数 | 17名 |

3. 役員に関する事項

2025年3月31日 現在

役職名	氏名	他の法人等の役職
代表取締役会長	芳村 直孝	(常勤)
代表取締役社長	内川 亜紀	(常勤)
取締役	柴田 隆行	株式会社伊藤組 代表取締役副社長
取締役	石塚 雅明	株式会社石塚計画デザイン事務所 顧問
取締役	石水 創	石屋製菓株式会社 代表取締役社長
取締役	菊地 弘記	札幌駅前通まちづくり株式会社 統括マネージャー
監査役	越田 雄三	株式会社北洋銀行 執行役員公金・地域産業支援部長
監査役	山田 光紀	株式会社北海道銀行 地域創生部長

注) 1 (取締役) 柴田隆行氏、石塚雅明氏、石水 創氏、は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2 (監査役) 越田雄三氏、山田光紀氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。